2017年12月31日(日) ルカ 2:22-40

ユダヤの律法からして、おそらく幼子イエスを連れてエルサレムからナザレの旅(約150Km)をしたのは、生後40日位経ってからだったのかと思う。ルカ福音書ではなにも触れられていないが、マタイ福音書では幼子を連れてエジプトに(エルサレムから約750Km)非難した時期もあった。車もなければ飛行機もない時代に、徒歩とせいぜいラクダとともに何日もかかってナザレに帰るにしろ、エジプトに行くしろたいへんだ。　私たちは飛行機のある時代、荷物も運んでくれる業者がある時代、日本の熊本に行く旅は楽なものだ。

2018年1月1日(日) ガラテヤ 4:4-7

「アッバ、父よ」とあるのは、イエスがそう呼ばれていた。そして私たちは主の祈りでは「天にまします我等の父よ」と訳されてしまっているが、現代風に言えば「ウォー父ちゃん」と感嘆の声に出すような感じでの呼びかけではないかと思う。　それくらい親近感があるのが、イエスから教えてくださった、私たちと父なる神の関係なのかと思う。　そのような関係の中で、信仰者に神が宿るということが起こっているのだと思う。　信仰者が神となるということではなく、信仰者としてはやはり罪深い人間にもかかわらずだ。。。

2018年1月4日箴言3:1-12

箴言は含蓄があってまたユーモラス。5－6節では、「自分の分別に頼らず綱に主を覚えてあなたの道を歩め」と。今年の聖句、イエスの十字架刑前の祈り、にも関係している。　9-10節では「初物を捧げ主を敬えーー新しい酒を溢れさせてくださる。」と。教会に捧げておいしいお酒にありつけるみたいな感じでもある。。。　私がそれまでは一度もおいしいなどと思ったこともないビールが本当においしいと感じだのは、神田のニコライ堂という正教会での出来事だった。

2018年1月7日マルコ1:4-11

洗礼者ヨハネは、イエスが聖霊で洗礼を授ける方であることをあらかじめ語っていた。そこにイエスが現れて、なんとイエスがヨハネから洗礼を受けられることになる。そして、後の聖霊降臨日に起こるのと同じような光景がおこっている。　私たちの目にははっきり見えないような、空気中に起こっている聖霊の働きが、私たちの洗礼のすべてで起こっていることを感じる。